

2018年テクノロジー予測

ソフトウェアは、2017年に続き、2018年も世界を席巻する様相を見せています。2017年は、スマートホームの普及を筆頭に、モノのインターネット（IoT）や音声認識コマンドハブのさらなる発展、WiFi技術の進歩、モノ・ネットワーク・都市の「つながり」への関心など、消費者の日常生活をより快適にできる技術の台頭が目立ちました。

ここでは、2018年に向けた私個人の予測を、傾向別にご紹介します。

1. よりスマートなソフトウェア

プラットフォームのスマート化には、人々のさまざまな行動パターンを忠実に学び対応する姿勢が必要とされます。システムが継続的に学習し、発展していくには、それぞれのシステムの行く末に注目し、急速な技術革新に後れを取らないだけの持続性が確保されるかどうか、また大義のために行われる情報共有と引き換えにされる倫理の面が考慮されるかどうかを見定めなくてはなりません。Belkin Internationalの最新ブランド『Phyn』は、水の消費を知ることでその後の消費計画を立てることができ、最先端のソフトウェア技術であり、スマートホーム製品に特

化したブランド『Wemo』は、ソフトウェアの機能をネットワークの末端にあるハードウェアで実現する製品です。

2. 効率化に役立つ技術を活かした、余剰能力の需要への対応

モバイルアプリのエコシステムは、2018年夏に10周年を迎えます。世界初のモバイルアプリ誕生から10年、現在では、カーシェアリング、自宅の貸出、犬の散歩、食品配達など、さまざまなモバイルアプリが日常的に利用されるようになりました。たとえば、「Uber Eatsのお料理配達」の利用者が、毎日世界中で数百万人に及んでいることから明らかのように、今後しばらくはこうした勢いが衰えることはないでしょう。2017年のモバイルアプリのダウンロード数は、2016年の1490億回を上回る1970億回に上り、2021年には3520億回に及ぶ見通しとなっています。より快適で便利で充実した日常生活を、技術の利用を通して実現しようとする傾向は、今後も継続するでしょう。

3. 音声認識

2017年は、Alexa、Cortana、Siriなど、家庭用音声認識分野が大きく躍進した年になりました。人気ではSiriが依然としてトップですが、Alexaも年末から年始にかけて数百万台の端末を売り上げるなど、急速な追い上げを見せています。今後、車載利用など、実用化の範囲がさら

に広がることで、2018年にはさらなる革新的な発展が期待されます。

4. 教育

Edtech（教育系 IT）の急速な発展に伴い、個別学習の効果に対する認識はますます高まっています。たとえば、学校に受け入れられないロサンゼルスLos Angelesの若者のために創設された [Da Vinci RISE High](#) では、学力的、精神的、あるいはモバイルスクールであれば身体的問題を抱える生徒をもありのままで受け入れ、サポートしています。ここでは、生徒の社会人としての成功に必要な基本的スキルを理解できるよう、科目の境界にとらわれない総合的な能力を育成するカリキュラムを採用しています。生徒は、DreamSeeDo と提携し開発されたモバイル アプリを使用し、核となる能力（コア コンピテンシー）をマスターした修了証をアップロードできる仕組みです。教育界の発展は、目覚ましいとは言い難いものの、Da Vinci RISE のような画期的な取り組みも進められており、2018 年中の進展に期待しています。

可能性は無限大

Chet Pipkin, CEO & founder, Belkin International

